

高等学校学習指導要領比較対照表（新設項目を中心に） 大橋康一

改訂(平成 30 年告示)	現行(平成 21 年告示)
総則	
第 1 章 総則 第 1 款 高等学校教育の基本と教育課程の役割 2 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、 第 3 款の 1 に示す 主体的・対話的で深い学びの実現 に向け た授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育 活動を展開する中で、次の(1)から(3)までに掲げる事項 の実現を図り、生徒に生きる力を育むことを目指すもの とする。 (1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これら を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断 力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む 態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教 育の充実に努めること。その際、生徒の発達の段階を考 慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動 を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒 の学習習慣が確立するよう配慮すること。 (2) (道徳教育や体験活動) (3) (体育・健康に関する指導) 3 2 の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創 造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待さ れる生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、 学校教育全体及び各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、 教育活動の充実を図るものとする。その際、生徒の発達 の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。 (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。 (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。 (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。 4 (体験的な学習) 5 各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握 し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教 科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施 状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施 に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善 を図っていくことなどを通じて、教育課程に基づき組織的か	第 1 章 総則 第 1 款 教育課程編成の一般方針 2 (道徳教育) 3 (体育・健康に関する指導) (新設) 4 (体験的な学習) (新設)

<p>つ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という）に努めるものとする。</p> <p>第2款 教育課程の編成</p> <p>1 各学校の教育目標と教育課程の編成</p> <p>教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科・科目等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第4章の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。</p> <p>2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成</p> <p>(1) 各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科・科目等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。</p> <p>(2) 各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。</p> <p>(3) 各教科・科目等の授業時数等</p> <p>○ 理数の「理数探究基礎」又は「理数探究」の履修により、総合的な探究の時間の履修と同様の成果が期待できる場合においては、「理数探究基礎」又は「理数探究」の履修をもって総合的な探究の時間の履修の一部又は全部に替えることができる。</p> <p>4 学校段階等間の接続</p> <p>教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。</p> <p>(1) 現行の中学校学習指導要領を踏まえ、中学校教育までの学習の成果が高等学校教育に円滑に接続され、高等学校教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。特に、中等教育学校、連携型高等学校及び併設型高等学校においては、中等教育6年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成すること。</p>	<p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>
---	---

国語	
<p>第2章 各学科に共通する各教科</p> <p>第1節 国語</p> <p>第1款 目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。</p> <p>(3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>	<p>第2章 各学科に共通する各教科</p> <p>第1節 国語</p> <p>第1款 目標</p> <p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p>
<p>第2款 各科目</p> <p>第1 現代の国語</p> <p>2 内容</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <p>(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。</p> <p>イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。</p> <p>ウ 推論の仕方を理解し使うこと。</p> <p>エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。</p> <p>オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。</p> <p>(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>第2款 各科目</p> <p>第1 国語総合</p> <p>(新設)</p> <p>〔国語総合〕</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 次の事項について指導する。</p> <p>オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。</p> <p>〔国語総合〕</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 次の事項について指導する。</p>

<p>ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。</p> <p>イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。</p> <p>ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。</p> <p>エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする活動。</p> <p>イ 報告や連絡、案内などのために、資料に基づいて必要な事柄を話したり、それらを聞いて、質問したり批評したりする活動。</p> <p>ウ 話合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を、他の議論や討論の記録などを参考にしながら行う活動。</p> <p>エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する活動。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動。</p> <p>イ 読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動。</p> <p>ウ 調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる活動。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数</p>	<p>ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。</p> <p>イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。</p> <p>ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。</p> <p>エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>【国語総合】</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。</p> <p>イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をした、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。</p> <p>ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと。</p> <p>【国語総合】</p> <p>B 書くこと</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。</p> <p>ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p> <p>【国語総合】</p> <p>C 読むこと</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>【国語総合】</p> <p>(2) 内容の A に関する指導については、次の事項に配慮する</p>
--	---

<p>については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については、20～30 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>ウ 「C 読むこと」に関する指導については、10～20 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>(2) 内容の〔知識及び技能〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア(1)のウの指導については、「言語文化」の内容の〔知識及び技能〕の(1)のイの指導との関連を図り、計画的に指導すること。</p> <p>(3) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については、必要に応じて、口語のきまり、敬語の用法などを扱うこと。</p> <p>イ 「B 書くこと」に関する指導については、中学校国語科の書写との関連を図り、効果的に文字を書く機会を設けること。</p> <p>(4) 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」の教材は、現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章とすること。</p>	<p>ものとする。</p> <p>ア 話すこと・聞くことを主とする指導には 15～25 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(2) 内容の A に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>イ 口語のきまり、言葉遣い、敬語の用法などについて、必要に応じて扱うこと。</p> <p>(6) 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>(新設)</p>
<p>第 3 論理国語</p> <p>1 目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようする。</p> <p>2 内容</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A 書くこと</p> <p>(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。</p> <p>イ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論</p>	<p>第 3 現代文 A</p> <p>1 目標</p> <p>近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>(新設)</p> <p>【現代文 B】</p> <p>(1)次の事項について指導する。</p> <p>エ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。</p> <p>オ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。</p>

<p>点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。</p> <p>ウ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。</p> <p>エ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。</p> <p>カ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「A 書くこと」に関する指導については、50～60 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>イ 「B 読むこと」に関する指導については、80～90 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>ウ 「C 読むこと」に関する指導については、10～20 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>(2) 内容の〔知識及び技能〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア(1)のウの指導については、「言語文化」の内容の〔知識及び技能〕の(1)のイの指導との関連を図り、計画的に指導すること。</p> <p>(3) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については、必要に応じて、口語のきまり、敬語の用法などを扱うこと。</p> <p>イ 「B 書くこと」に関する指導については、中学校国語科の書写との関連を図り、効果的に文字を書く機会を設けること。</p> <p>(4) 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」の教材は、現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章とすること。</p> <p>イ 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。</p>	<p>(新設)</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>【国語総合】</p> <p>(2) 内容の A に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 話すこと・聞くことを主とする指導には 15～25 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>(3) 内容の B に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 書くことを主とする指導には 30～40 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>
---	--

地歴	
<p>第2章 各学科に共通する各教科</p> <p>第2節 地理歴史</p> <p>第1款 目標</p> <p>社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主院な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようする。</p> <p>(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に刻する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>第2款 各科目</p> <p>第1 地理総合</p> <p>2 内容</p> <p>A 地図や地理情報システムで捉える現代世界</p> <p>第2 地理探究</p> <p>1 目標</p> <p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察した</p>	<p>第2章 各学科に共通する各教科</p> <p>第2節 地理歴史</p> <p>第1款 目標</p> <p>我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。</p> <p>第2款 各科目</p> <p>【地理 A】</p> <p>(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察</p> <p>ア 地球儀や地図からとらえる現代世界</p> <p>第5 地理 A</p> <p>1 目標</p> <p>現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>第6 地理 B</p> <p>現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を</p>

<p>り、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>A 現代世界の系統地理的考察</p> <p>(3) 交通・通信、観光</p> <p>場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア)交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理備すること。</p> <p>イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア)交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地理的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>オ 調査の実施や諸資料の収集に当たっては、専門家や関係諸機関などと円滑に連携・協働するなどして、社会との関わりを意識した活動を重複すること。</p> <p>ウ 内容のCについては、次のとおり取り扱うものとすること。</p> <p>(1) (1)については、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>この科目的まとめとして位置付けること。</p> <p>「我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方」については、国際連合における持続可能な開発のための取組(SDGs)などを参考に、生徒の興味・関心などを踏まえて適切な事例を選定し、学習できるよう工夫すること。その際、「我が国が抱える地理的な諸課題」に関しては、それぞれの課題が相互に関連し合うとともに、それらの現状や要因の分析、解決の方向性については、複数の立場や意見があることに留意すること。</p>	<p>培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>
---	---

<p>第3 歴史総合</p> <p>1 目標</p> <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、……公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を按野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、教が国に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>2 内容</p> <p>ア 次のような技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問い合わせ表現すること。</p> <p>(2) 結び付く世界と日本の開国</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(7) 18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジアと欧米の貿易などを基に、18世紀アジアの経済と社会を理解する。</p> <p>(イ) 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開港などを基に、工業化と世界市場の形成を理解すること。</p> <p>イ 思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p>	<p>目標</p> <p>第1 世界史 A</p> <p>近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、……</p> <p>第2 世界史 B</p> <p>世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化的多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>第3 日本史 A</p> <p>我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>第4 日本史 B</p> <p>我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>(新設)</p> <p>〔世界史 A〕</p> <p>(2) 世界の一体化と日本</p> <p>近現代世界を理解するための前提として、ユーラシア諸文明の特質に触れるとともに、16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう過程を理解させる。</p> <p>イ 結び付く世界と近世の日本</p> <p>大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容、</p>
---	---

<p>(ア) 18世紀のアジア諸国との経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>(イ) 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題</p> <p>……自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、諸資料を活用して、追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(7) 現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解すること。</p> <p>イ 思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現すること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア この科目では、中学校までの学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもつて近現代の歴史を学習できるよう指導を工夫すること。その際、近現代の歴史の変化を大観して理解し、考察、表現できるようにすることに指導の重点を置き、個別の事象のみの理解にとどまることのないよう留意すること。</p> <p>ウ 近現代の歴史と現代的な諸課題との関わりを考察する際には、政治、経済、社会、文化、宗教、生活などの観点から諸事象を取り上げ、近代の歴史を多面的・多角的に考察できることにすること。また、過去の視点のみで一面的に現在を捉えたり、現在の視点のみで一面的に過去を捉えたりすることがないよう留意すること。</p> <p>エ 年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、文化遺産、</p>	<p>16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p> <p>ワ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成</p> <p>産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p> <p>エ アジア諸国の変貌と近代の日本</p> <p>ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中の日本の動向を扱い、19世紀の世界一体化と日本の近代化を理解させる。</p> <p>【日本史 A】</p> <p>(2) 近代の日本と世界</p> <p>開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 近代国家の形成と国際関係の推移</p> <p>(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。</p> <p>(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に着目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。</p> <p>(新設)</p> <p>【世界史 A】</p> <p>(1) 全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>イ 年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること。</p> <p>【日本史 A】</p> <p>(1) 全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。</p>
---	---

<p>博物館や公文書館、その他の資料館などを調査・見学したりするなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際、歴史に関わる諸資料を整理・保有することの意味や意義に気付くようすること。また、科目の内容に關係する専門家や関係諸機関などとの円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した指導を工夫すること。</p>	<p>ワ 年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること。</p>
公民	
<p>第1款 目標</p> <p>社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>第1款目標</p> <p>広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。</p>
<p>第2款 各科目</p> <p>第1 公共</p> <p>2 内容</p> <p>A 公共の扉</p> <p>(2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方</p> <p>(ウ) 人間としての在り方生き方に關わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身につけること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア)倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も</p>	<p>第2款 各科目</p> <p>(新設)</p>

<p>共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>(3) 公共的な空間における基本的原理</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現すること。</p>	<p>(新設)</p>
<p>数学</p>	
<p>第1款 目標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようとする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>	<p>第1款 目標</p> <p>第1款目標</p> <p>数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。</p>
<p>第2款 各科目</p> <p>第1 数学 I</p> <p>1 目標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らば</p>	<p>第2款 各科目</p> <p>第1 数学 I</p> <p>1 目標</p> <p>数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>

<p>りや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p>	
<p>2 内容</p> <p>(1) 数と式 (2) 図形と計量 (3) 二次関数</p>	
<p>(4) データの分析</p> <p>データの分析について、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>(4) データの分析</p> <p>統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。</p>
<p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p>	<p>ア データの散らばり</p>
<p>(ア) 分散、標準偏差、散布図及び相関係数</p>	<p>四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明すること。</p>
<p>(イ) コンピュータなど情報機器を用いて、データを表やグラフに整理し、分散や標準偏差など基本的統計量を求める。</p>	<p>(「四分位偏差」は中学校数学に移行)</p>
<p>(ウ) 具体的事象において仮説検定の考え方を理解すること。</p>	<p>イ データの相関</p>
<p>〔課題学習〕</p>	<p>散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明すること。</p>
<p>(1) から (4) までの内容又はそれらを相互に関連付けた内容</p>	<p>(「仮説検定の考え方」は新設)</p>
<p>を生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題を設け、生徒の主体的学習を促し、数学のよさを認識させ、学習意欲を含めた数学的に考える資質・能力を高めるようする。</p>	<p>(新設)</p>
<p>第2 数学II</p>	
<p>2 内容</p>	
<p>(1) いろいろな式</p>	<p>(1) いろいろな式</p>
<p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p>	<p>整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようになるとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようとする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようとする。</p>
<p>(ア) 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察すること。</p>	
<p>(イ) 実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し証明する。</p>	
<p>(ウ) 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用すること。</p>	
<p>(2) 図形と方程式</p>	<p>(2) 図形と方程式</p>
<p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p>	
<p>(ア) 座標平面上の図形について構成要素に着目し、方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係を考察する。</p>	
<p>(イ) 数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする。</p>	
<p>(3) 指数関数・対数関数</p>	<p>(3) 指数関数・対数関数</p>

<p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 指数と対数を相互に関連付けて考察すること。</p> <p>(イ) 指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察すること。</p> <p>(ウ) 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。</p> <p>(5) 微分・積分の考え方</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 関数とその導関数との関係について考察すること。</p> <p>(イ) 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。</p> <p>〔課題学習〕</p> <p>(1) から (5) までの内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識させ、学習意欲を含めた数学的に考える資質・能力を高めるようにする。</p>	<p>指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(5) 微分・積分の考え方</p> <p>微分・積分の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(新設)</p>
--	---

理科

<p>第1款 目標</p> <p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>第2款 各科目</p> <p>第1 科学と人間生活</p> <p>第2 物理基礎</p> <p>1 目標</p> <p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考</p>	<p>第1款 目標</p> <p>自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p> <p>第2款 各科目</p> <p>第2 物理基礎</p> <p>1 目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々</p>
---	--

<p>え方を働き、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようとする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	<p>なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</p>
<p>2 内容</p> <p>(1) 物体の運動とエネルギー</p> <p>日常に起こる物体の運動についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p>	<p>2 内容</p> <p>(1) 物体の運動とエネルギー</p> <p>日常に起こる物体の運動を観察、実験などを通して探究し、その基本的な概念や法則を理解させ、運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>
<p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>イ この科目で育成を目指す資質・能力を育むため、観察、実験などを行い、探究の過程を踏まえた学習活動を行うようすること。その際、学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得させようするとともに、報告書などを作成させたり、発表を行う機会を設けたりすること。</p>	<p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>イ 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行い、報告書を作成させたり発表を行う機会を設けたりすること。また、その特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得させようすること。その際、コンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用を図ること。</p>
<p>第4 化学基礎</p> <p>1 目標</p> <p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働き、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるよう</p>	<p>第4 化学基礎</p> <p>1 目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などをを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</p>

<p>にする。</p> <p>(2) 観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>第6 生物基礎</p> <p>1 目標</p> <p>生物や生物現象に関わり, 理科の見方・考え方を働かせ, 見通しをもって観察, 実験を行うことなどを通して, 生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら, 生物や生物現象について理解するとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けるようする。</p> <p>(2) 観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度と, 生命を尊重し, 自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>エ この科目で扱う用語については, 用語の意味を単純に数多く理解させることに指導の重点、を置くのではなく, 主要な概念を理解させるための指導において重要な 200 語程度から 250 語程度までの重要用語を中心に, その用語に関わる概念を, 思考力を發揮しながら理解させるよう指導すること。なお, 重要用語には中学校で学習した用語も含まれるものとする。</p> <p>第8 地学基礎</p> <p>1 目標</p> <p>地球や地球を取り巻く環境に関わり, 理科の見方・考え方を働かせ, 見通しをもって観察, 実験を行うことなどを通して, 地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら, 地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けるようする。</p> <p>(2) 観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度と, 自然環境の保全に寄与する態度</p>	<p>第6 生物基礎</p> <p>1 目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め, 目的意識をもって観察, 実験などを行い, 生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに, 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ, 科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>(新設)</p> <p>第8 地学基礎</p> <p>1 目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め, 目的意識をもって観察, 実験などをを行い, 地学的に探究する能力と態度を育てるとともに, 地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ, 科学的な見方や考え方を養う。</p>
---	---

<p>を養う。</p> <p>第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること。</p>	<p>第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(新設)</p>
英語	
<p>第1款目標</p> <p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>第1款目標</p> <p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。</p>
<p>第2款 各科目</p> <p>第1 英語コミュニケーションI</p> <p>1 目標</p> <p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域(以下この節において「五つの領域」という。)別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)</p>	<p>第2款 各科目</p> <p>第2 コミュニケーション英語I</p> <p>1 目標</p> <p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。</p>

及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようとする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようとする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようとする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようとする。

(3) 話すこと[やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続けることができるようとする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うことができるようとする。

(4) 話すこと[発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようとする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようとする。

<p>(5) 書くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができるようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができるようとする。</p> <p>2 内容</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1) 英語の特徴やきまりに関する事項</p> <p>実際に英語を用いた言語活動を通して、小学校学習指導要領(平成二十九年文部科学省告示第六十三号)第2章第10節の第2の2の(1)、中学校学習指導要領(平成二十九年文部科学省告示第六十四号)第2章第9節の第2の2の(1)及び次に示す言語材料のうち、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 音声</p> <p>(ア)語や句、文における強勢</p> <p>(イ)文におけるイントネーション</p> <p>(ウ)文における区切り</p> <p>イ 句読法</p> <p>(ア)コンマ</p> <p>(イ)コロン、セミコロン</p> <p>(ウ)ダッシュ</p> <p>ウ 語、連語及び慣用表現</p> <p>(ア)小学校及び中学校で学習した語に400～600語程度の新語を加えた語</p> <p>(イ)連語</p> <p>(ア)慣用表現</p> <p>(イ)</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項</p>	<p>第3款 英語に関する各科目に共通する内容等</p> <p>2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。その際、「コミュニケーション英語1」においては、言語活動と効果的に関連付けながら、ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>ア 語、連語及び慣用表現</p> <p>(7) 語</p> <p>a 「コミュニケーション英語1」にあっては、中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語</p> <p>(イ) 連語及び慣用表現のうち、運用度の高いもの</p> <p>(新設)</p>
---	--

<p>具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめたりすること。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。</p> <p>ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、要点や意図などを明確にしながら、英語で話したり書いたりして、情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。</p> <p>(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項</p> <p>① 言語活動に関する事項</p> <p>(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。</p> <p>ア 中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(3)の①に示す言語活動のうち、中学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。</p> <p>イ 聴くこと</p> <p>(7) 日常的な話題について、話される速さを調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。</p> <p>(イ) 社会的な話題について、話される速さを調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりながら、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。</p> <p>ウ 読むこと</p> <p>(7) 日常的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら、電子メールやノ号ンフレットな</p>	<p>[コミュニケーション英語I]</p> <p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような</p>
--	--

<p>どから必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。</p> <p>(イ)社会的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら、説明文や論証文などから必要な情報を読み取り、概要や要点を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。</p> <p>エ 話すこと[やり取り]</p> <p>(7) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを即興で伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p> <p>(イ)社会的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p> <p>オ 話すこと[発表]</p> <p>(ア)身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>(イ)社会的な話題について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>カ 書くこと</p> <p>(ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。</p>	<p>事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。</p> <p>ワ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。</p>
--	---

動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想、を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想、を伝え合ったりする活動。